

協同の発見

第 305 号
2018.4

きょうどうのはっけん



全国よい仕事研究交流集会2018

①

◎全国よい仕事研究交流集会2018 全体会

- ・古村 伸宏 開会挨拶 ・バク・ジュンホン 来賓挨拶 ・基調提起
- ・内山 節 記念講演「ともに生きる世界ーいのちと社会をむすんでー」
- ・リレートーク「いのちと社会に向き合う協同労働・よい仕事とは何かー居場所ー自らのくらしと地域を共につくるー」
◇報告者 金山 ふみ／森本 宏美／木下 史郎／木村 協子、飯沼 宏亘
◇コメント：星平 順子／小白井 加代子／大石 英子／稲葉 健太
◇コメンテーター 大高 研道 ◇コーディネーター 田嶋 康利
- ・地域課題解決のためのワーカーズコープづくりに挑戦する地域報告ー
◇青木 健太「ふるさとをここに」
◇佐藤 賀多子／佐藤 美保／菊池 直美／前田 秀樹「遠野市『いっぱいほの会』とともに」
- ・閉会挨拶 田中 羊子

◎「全国よい仕事研究交流集会2018」全体会 感想文の紹介ーよい仕事の基準に焦点をあててー 荒井 絵理菜

◎「全国よい仕事研究交流集会2018」の分散会で報告した事業所の推薦理由から分析する「よい仕事の基準」 編集部 (相良 孝雄・岩城 由紀子・荒井 絵理菜)

■ワーカーズコープで働く若手リーダー(第16回)

渡邊 久美子 強くも弱くも一人ひとりの力 ～一人ひとりの協同が和となり輪となる～

■巻頭言

大高 研道 「変えることのできないもの」と「変えることのできるもの」ー新たな協同労働実践の幕開けに寄せてー



一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の発見

第305号 2018.4

特集 全国よい仕事研究交流集会2018 ①

目次

巻頭言

「変えることのできないもの」と「変えることのできるもの」-新たな協同労働実践の幕開けに寄せて-	2
大高 研道(明治大学教授/協同総研常任理事)	

特集 全国よい仕事研究交流集会2018 ①

・特集リード 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	5
◎全国よい仕事研究交流集会2018 全体会	
・開会挨拶 古村 伸宏(日本労協連 理事長)	11
・来賓挨拶 パク・ジュンホン(社団法人韓国地域自活センター協会長)	15
・基調提起	17
・記念講演「ともに生きる世界-いのちと社会をむすんで-」 内山 節(哲学者)	27
・リレートーク	
「いのちと社会に向き合う協同労働・よい仕事とは何か ~居場所-自らのくらしと地域を共につくる~」	
報告者	
◇ 金山 ふみ(大野城事業所 所長)「こんな私たちの居場所“ほっとのたね”-地域の居場所からフリースクール活動に向かって-」	39
コメント: 星平 順子(センター事業団九州事業本部本部長)	
◇ 森本 宏美(宇都宮地域福祉事業所 所長)「社会連帯からよい仕事おこしへ向かいたい…!」	43
コメント: 小白井 加代子(センター事業団北関東事業本部副本部長、栃木エリアマネージャー)	
◇ 木下 史郎(地域福祉事業所 Workers Net Rings 所長)「地域福祉事業所 Workers Net Rings」	48
コメント: 大石 英子(渋谷区笹幡保育室園長)	
◇ 木村 協子(ふじみ野地域福祉事業所 所長)、飯沼 宏亘(ふじみ野地域福祉事業所 生活困窮者支援事業リーダー)	
「理不尽な差別や排除を超えて、誰もが主人公となれる社会へ」	54
コメント: 稲葉 健太(センター事業団北関東事業本部本部長、専務補佐)	
コメンテーター 大高 研道(明治大学教授/協同総研常任理事)	59
コーディネーター 田嶋 康利(日本労協連 専務理事)	
・地域課題解決のためのワーカーズコープづくりに挑戦する地域報告～	
報告者	
◇ 青木 健太(並柳団地町会 町会長)「ふるさとをここに」	64
◇ 佐藤 賀多子(遠野市いっばいほの会会長)、佐藤 美保(遠野市いっばいほの会賛助会員)	68
菊池 直美(遠野市いっばいほの会保護者会員)、前田 秀樹(センター事業団東北事業本部・総務経理センター長)	
「遠野市『いっばいほの会』とともに」	
・閉会挨拶 田中 羊子(日本労協連副理事長)	72
◎「全国よい仕事研究交流集会2018」全体会 感想文の紹介-よい仕事の基準に焦点をあてて-	76
荒井 絵理菜(協同総合研究所 事務局)	
◎「全国よい仕事研究交流集会2018」の分散会で報告した事業所の推薦理由から分析する「よい仕事の基準」	88
編集部(相良 孝雄・岩城 由紀子・荒井 絵理菜)	
ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(第16回)	
強くも弱くも一人ひとりの力 ~一人ひとりの協同が和となり輪となる~	99
渡邊 久美子(センター事業団但馬地域福祉事業所)	
労協連だより 高成田 健	104
研究所だより 荒井 絵理菜	105

巻頭言

「変えることのできないもの」と 「変えることのできるもの」 — 新たな協同労働実践の幕開けに寄せて —

大高 研道 (明治大学教授/協同総研常任理事)

神よ、
変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、
変えることのできるものと、変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。
(ニーバーの祈り[大木英夫訳])

去る3月3-4日に開催された「全国よい仕事研究交流集会2018」は、新たなワーカーズの時代の幕開けを感じさせる集会であったように思われる。その重要な変化の一つは「地域に出て行く、知ってもらおうワーカーズ」から「地域の人びとがつかい、困りごとを持ち込んでくるワーカーズ」への展開に見出すことができる。初日のラストを飾った「地域課題の解決のためのワーカーズコープづくりに挑戦する地域報告」は、そのことを強く感じさせるものであった。市民や自治会がワーカーズコープを立ち上げようとする試みは、地域の困りごとを持ち込める場として

のワーカーズの今日的到達点といえるのではないだろうか。そこにあるのは、「ワーカーズにつながっていれば何とかなる!」という思いや安心感である。何かあったときに頼れる存在としてワーカーズがいる、或いはワーカーズが存在が思い浮かぶということは、地域の拠り所としてのワーカーズの挑戦が着実に実を結んでいることを示している。

もちろん、転機は決して急にやってきたわけではない。長年の協同労働の蓄積に鑑みれば、このような展開はある種の必然だったとも言える。その上

で、あえて「歴史的現在」という流れの中でワーカーズの「今」を考えると、やはり大きなターニングポイントになったのが東日本大震災とその後のワーカーズの取り組みだったのではないだろうか。

先日(4/2)、半年振りに登米のワーカーズに伺った。振り返ってみれば、初めて東北復興本部を訪問した2011年8月8日は、翌日の「緊急雇用創出事業登米市震災対応人材育成事業」申請のプレゼンに向けた準備に田中羊子さんが奔走している時だった。それが、東北復興本部の取り組みの中で生まれた最初の事業所になった。次に訪れたのは、人材育成事業第1期の頃で、青木未知さんが所長として奮闘していた。失敗や問題だらけの大変な時で、必ずしも順調に仕事づくりが進んでいるとはとてもいえる状況ではなく、正直、私自身、どうにもならないのではないかとさえ思ってしまった。難産の末にうまれた高齢者通所介護施設「はっぴいディ」の設立準備過程でも、聞くも涙、語るも涙の苦悩や葛藤の連続だった。その後、何度か訪問し、昨年夏にはゼミ合宿でもお世話になっているが、当初のことを思い起こすと、その後の実践の発展には驚きと畏敬の念さえ感じている。

地域産業の衰退や過疎化に直面して

いる東北の地方都市出身の私には、農山漁村地域の現状は、無理な延命措置を取らされ、絶望を抱えたまま為す術も無く現実を受け入れているようにみえる。東日本大震災が襲ったのは、そのような多くの「限界集落」と称されてきた地域である。震災によって私たちは多くの貴重な命を失った。そして、7年経った今、被災地では再び何かを失いつつある。今、彼の地では補助金がなくなると潮が引くように企業や支援団体が撤退し、後には、未来への展望が持てないだけでなく、次の世代にその伝統文化や技を引き継ぐ気力さえ失った人びとが残されることになった。

しかし、震災が残したものは諦めと絶望だけでなかった。そこには、自ら地域を遺し、創っていかうとする地域住民がおり、そしてその自助と自立を協同の力で成し遂げるための支えになろうとする人びとや組織もいた。それがワーカーズである。この経験が、地域を超えて全国各地の実践に大きな刺激を与えていることは間違いない。そして、「いのちと社会に向き合う協同労働」を通して蓄積された「協同の知」が、時空を超え、「人と地域を思いやる『自立・協同・愛』の文化」(第2原則)として、未来に継承されようとしている。

「変えることのできないもの」を受けいれる冷静さは必要である。しかし、ワーカーズの実践に接していると、ひょっとして私たちは「変えることのできるもの」を「変えることのできないもの」として端から諦めてしまっているのではないかと気づかされる。諦めと絶望が先行し、成り行き任せの客体化した状態に慣れてしまった私たちに必要なのは、「変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵」であり、「変えることのできるもの」を「変えるだけの勇気」であることを教えてくれたのが

震災後の7年間の道のりだったのではないだろうか。

「私たちは、発見した。…私たちは、知った。…私たちは、直面している。…私たちは、宣言する。…」。「協同労働の協同組合の原則『宣言』」を読み直し、今、私はあらためて「自立と協同の新しい時代を、いま、ここに、共に、切り拓くことを」めざすワーカーズのこれまでとこれからの歩みに思いを巡らせ、希望とともに生きていく勇気を胸に抱くことができるようになっている。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。